



2019年度（2020年3月期）

決算補足説明資料

2020年5月21日

ぴあ株式会社

東京証券取引所市場 第一部

証券コード：4337

[1]2019年度 業績の概要

- 1)決算のポイント**
- 2)新型コロナウイルスの当社及び業界への影響**
- 3)業績**
- 4)主な取り組み**

[2]2020年度 業績予想及び配当予想 及び 中期経営計画(2018~2020年度)の数値目標



1) 決算のポイント

当社グループ通期連結業績のポイントは以下の通り。

- 1) 2019年度は、特に演劇・サッカー・映画ジャンルを中心に、興行チケット販売は好調に推移したが、2020年2月以降、新型コロナウイルス感染拡大による政府からの自粛要請を受け、あらゆる興行の中止・延期が全国規模で発生。当社取り扱い興行の約80%がチケットの払い戻しの対象となり、その対応に関わる特別損失として、約5億5千万円を計上。
- 2) 新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、ライブ・エンタテインメント市場が急速に収縮したことに伴い、第4四半期の売上高が急減。また、前述の特別損失の計上により、通期での売上高、営業利益、経常利益、当期利益ともに、期初予想を下回る形で着地。
- 3) 資金状況は、約150億円の借入を準備、今後の資金繰りに万全を期す。
- 4) 配当は、通期業績を踏まえ、1株当たり5円に修正。



2) 新型コロナウイルスの当社及び業界への影響

【当社への影響について】

- ・ 政府からのイベント自粛要請に従い、2月下旬より中止・延期が相次ぎ、3月以降はほぼ全ての興行・イベントが中止を余儀なくされ、当社でも膨大な量のチケットの払い戻し対応が続いている。
- ・ 「ぴあアリーナMM」は、4月25日に予定していた「ゆず」のこけら落とし公演をはじめ、その後のイベントも中止となり、開業の延期を決定。
- ・ 当社主催興行についても、3月以降に予定されていたほぼ全てについて中止・延期を決定。

【ライブ・エンタテインメント業界への影響について】

- ・ 3月下旬、首相官邸での集中ヒアリングにおいて、ぴあ総研にて推計したライブ・エンタテインメント業界へのダメージ影響を報告し、政府からの助成と支援を要請。
- ・ この状況が5月末まで続けば、年間のライブ・エンタテインメント産業の市場規模の約1/3が消失するものと予測。業界全体を代弁する形で、その窮状や対策案を各界・メディアに向けて広く発信。

	すでに発生した 【確定値】	今後追加で見込まれる 【推計値】 (5月末まで現状継続の場合)	合計
① 中止延期等により売上がゼロもしくは減少した公演・試合の総数	81,000本	72,000本	153,000本
② 入場できなくなった観客総数 (延べ)	5,800万人	5,100万人	1億900万人
③ 中止延期等により売上がゼロもしくは減少した公演・試合の入場料金の総額	1,750億円	1,550億円	3,300億円
年間市場規模9,000億円に対する減少率	19%	17%	37%



2)業績 ①期初予想との比較

年間を通じて当初想定通りに推移するも、第4四半期の新型コロナウイルス感染拡大の影響により、通期での売上高、営業利益、経常利益、当期純利益ともに、期初予想を下回る結果となった。

【連結】 期初予想との比較

[単位:百万円]

	期初予想 (昨年5/9発表)	2019年度 実績	期初予想との差
売上高	180,000	163,204	△16,796
営業利益	1,450	1,104	△346
経常利益	1,400	1,110	△290
親会社株主に帰属する 当期利益	820	121	△699



2)業績 ②前年比較

市場の活況とインターネット販売の伸張を受け、業績は好調に推移していたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、いずれも前年比を下回る結果となった。特別損失の計上等により、利益は前年比大幅減となったが、黒字は維持。

【連結】 前年比較

[単位:百万円]

	前年度	2019年度	前年比
売上高	179,969	163,204	△9.3%
営業利益	1,377	1,104	△19.8%
経常利益	1,348	1,110	△17.7%
親会社株主に帰属する 当期利益	817	121	△85.1%

2)業績 ③連結損益計算書 (要約)



[単位:百万円]

	【前年度】	【2019年度】	【前年度差】
売上高	179,969	163,204	△16,765
売上原価	164,965	148,943	△16,022
差引売上総利益	15,004	14,260	△744
販管費	13,626	13,156	△470
営業利益	1,377	1,104	△273
営業外収益	46	54	+7
営業外費用	75	48	△27
経常利益	1,348	1,110	△238
特別利益	—	—	—
特別損失	—	688	+688
税引き前当期純利益	1,348	422	△927
法人税等合計及び非支配株主利益	529	300	△229
親会社株主に帰属する当期純利益	817	121	△696
包括利益	828	122	△706

2)業績 ④連結貸借対照表 (要約)



[単位:百万円]

資産の部		
	【前年度】	【2019年度】
現預金	25,206	23,869
売掛金等	20,759	11,707
商品等	167	129
その他	3,718	3,116
流動資産：前年度比11,029減少		
流動資産	49,850	38,821
有形固定	4,435	11,434
無形固定	4,517	4,783
投資その他	3,895	3,570
固定資産：前年度比6,939増加		
固定資産	12,848	19,788
資産合計	62,699	58,610

負債の部		
	【前年度】	【2019年度】
流動負債：前年度比9,898減少		
流動負債	52,614	42,715
固定負債	3,483	9,875
負債合計	56,098	52,591
純資産の部		
資本金	4,924	4,924
資本剰余金	1,105	1,121
利益剰余金	4,431	4,289
自己株式	△3,904	△4,331
他包括利益	△44	△51
非支配株主持分	88	66
純資産合計	6,601	6,019
負債純資産合計	62,699	58,610

2) 業績 ⑤ 連結キャッシュフロー計算書 (要約)



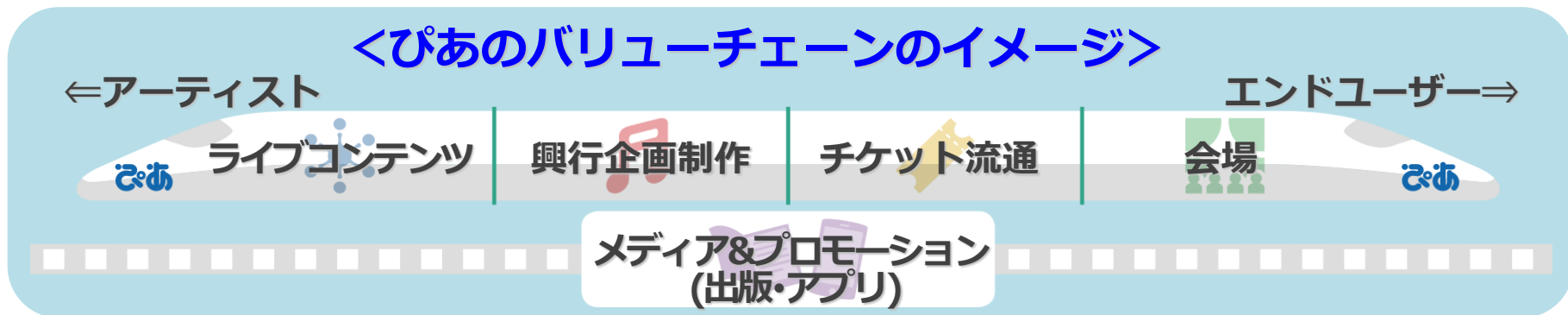
[単位:百万円]

	【前年】	【2019年度】	【前年度比】
税引き前当期利益	1,348	422	△926
減価償却費	1,323	1,361	+38
売上債権の増減	4,527	9,052	+4,525
仕入債務の増減	△2,065	△7,317	△5,252
その他	5,624	△4,757	△10,381
利息・税金等	△220	△1,112	△892
営業キャッシュ・フロー	10,537	△2,351	△12,888
無形固定資産の取得	△1,933	△1,754	+179
その他	△3,147	△6,209	△3,062
投資キャッシュ・フロー	△5,080	△7,963	△2,883
財務キャッシュ・フロー	1,166	8,979	+7,813
キャッシュの増減	6,623	△1,337	△7,960

3) 中期経営計画(2018~2020年度)の骨子

- ① ライブコンテンツの供給からユーザー体験までをトータルに提供できる、ぴあならではのバリューチェーンの成立を目指す。

<ぴあのバリューチェーンのイメージ>



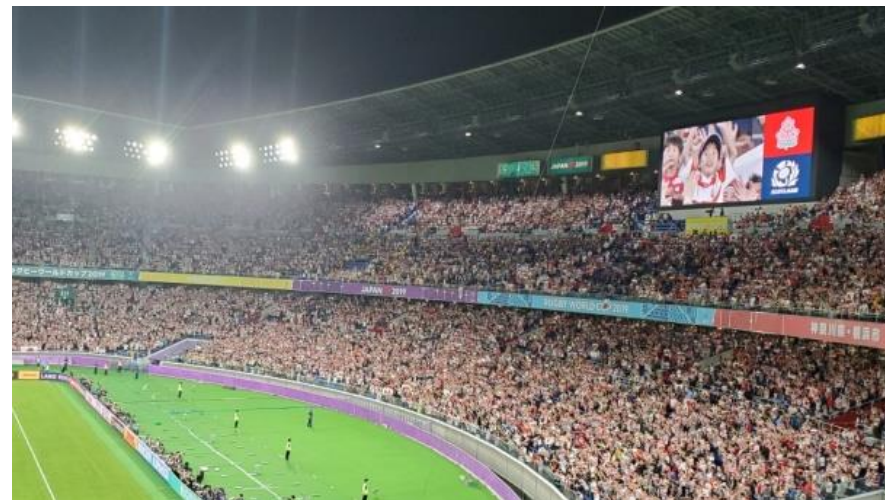
- ② 2019年のラグビーW杯や、2020年の東京オリンピック・パラリンピックをはじめとする、大規模な国際的イベントのチケットングオペレーションの成功を通じて、国内外におけるぴあのブランド価値を高める。
- ③ 新規事業・サービスの開発、女性の視点をふまえた働き方改革を推進するとともに、中長期的な事業戦略を策定する。

4) 主な取り組み ～国際イベントへの参画～



「ラグビーW杯2019」開催

当社は「チケットングサプライヤー」として公式チケットサイトの構築と運営を受託し、チケット販売枚数は184万枚、販売率は過去最高の99.3%を記録。



「東京2020オリンピック・パラリンピック」に向けた準備

- ・当社がチケットングシステム&サービスオペレーション業務を受託しており、すでに観戦チケット第2次抽選販売を実施済。開催延期に伴う今後の対応を検討・準備中。

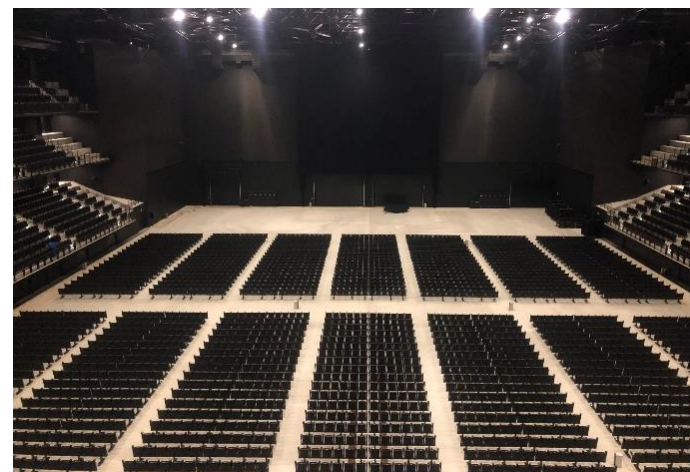
- ・「東京オリンピック」マラソン・競歩の会場変更に伴う払い戻し対応も実施。



4) 主な取り組み ～ぴあアリーナMM～



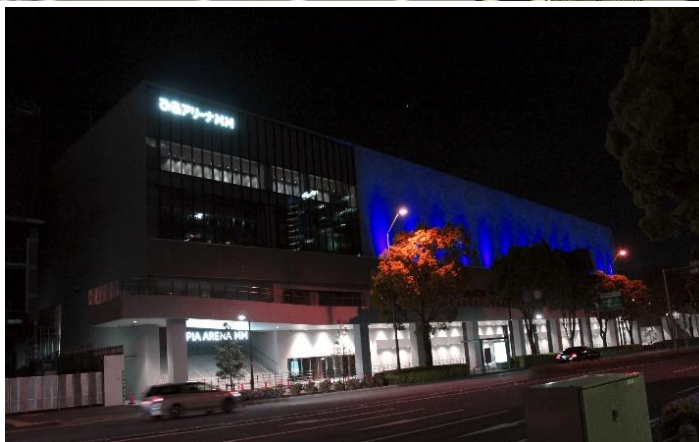
「ぴあアリーナMM」は、工事自体は順調に進行するも、新型コロナウイルスの影響で開業は延期。



▲ 内観写真

3階ホスピタリティラウンジ ▼

▶ 新型コロナウイルス感染症に最前線で立ち向かう、医療従事者への感謝を込めたブルー・ライトアップに参加



4) 主な取り組み ~ぴあ(アプリ)~



ぴあ(アプリ)関西版・中部版を10月に本創刊。
2020年1月には、100万ダウンロードを突破。



偶然の出会いと発見を創り出していた雑誌『ぴあ』の世界観を再現。多彩な機能も好評



ソリューション連携に加え、協業の強化にも取り組む。



ぴあフィールドサービス株式会社 (PFS)を11月に設立

スポーツくじ(toto)事業等をぴあ本体より移管するとともに、そのノウハウを活かし、幅広いフィールド支援サービスの提供を目指す



ダイナミックプライシング(価格変動制)によるチケット販売を強化

ダイナミックプラス社との協業で実施。Jリーグ主催試合や約10のクラブなどをはじめとするスポーツや演劇公演など幅広く展開中



コンテンツ保有者等との関係性の強化を継続。興行事業は、収益拡大のため大型興行へのアプローチを強化。

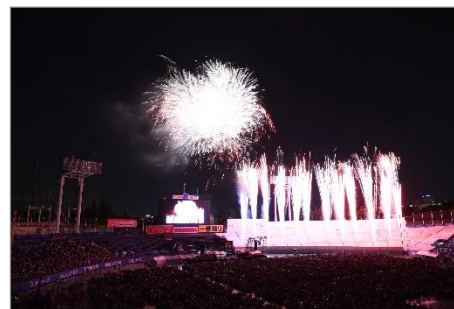
【2019年度の主な当社主催イベント】



◆「俺 矢沢永吉」展



◆METROCK2019
OSAKA・TOKYO



◆神宮外苑花火大会



◆パンのフェス



◆PMC(ぴあフェス)



◆BBC Proms JAPAN



◆YOKOHAMA
ミッドナイトHAR★BAR



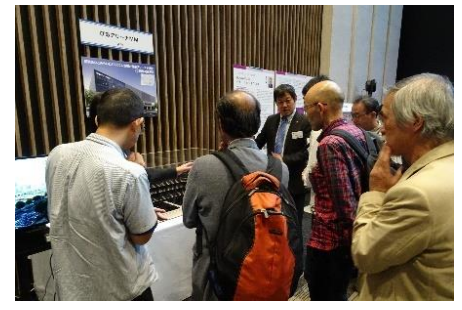
◆au×PIAの
「uP!!!NEXT 須田景風
～晩翠～」

4) 主な取り組み ~株主様との交流~



第46回定時株主総会を開催

毎年約800~900名の株主様が出席。総会終了後の株主様と経営陣との懇談や映画上映が好評



株主優待制度の変更(拡充)を発表

2期継続、100株以上を保有の株主様全員に、これまでの優待品に加え、アプリ版「ぴあ」の有料コンテンツ(年6,000円分)を、無料で利用できる特典を追加

[期末保有株式数]		[株式保有期間]	
1,000株以上	5,500円分	11,000円分	アプリ ぴあ 年6,000円分
100株以上	2,500円分	5,000円分	アプリ ぴあ 年6,000円分
	2期末満(1年未満)保有	2期以上(1年超)継続保有	

神奈川県在住の方を対象に「ぴあ個人株主懇談会」を開催



▲懇談会の様子



▲恒例のじゃんけん大会

4) 主な取り組み ～社業を通じた社会的活動①～



「第1回大島渚賞」 授賞式・上映会を開催



「第41回PFF (ぴあフィルムフェスティバル)」を開催



▲ 「第1回大島渚賞」授賞式



▲ 「第41回PFF」授賞式



受賞者は小田香監督。
審査員長は音楽家の
坂本龍一氏、黒沢清監督、
荒木啓子PFFディレク
ターが審査員を務めた。



グランプリは、中尾広
道監督の「おばけ」に
決定。右は、最終審査
員の白石和彌監督

4)主な取り組み ～社業を通じた社会的活動②～



各界の著名人を被災地に招く 「わたしの夢」応援プロジェクト」 も継続中



Vol.21
野村万蔵さん、林家正蔵さん
(福島)



Vol.22
乙武洋匡さん、伊藤力さん、
齋藤由希子さん、藤本怜央さん(宮城)



Vol.23
乙武洋匡さん、齋藤由希子さん、
萩野真世さん、村田奈々さん(岩手)



Vol.24
野村万蔵さん、古今亭菊之丞
(岩手)

大相撲九月場所より 「がんばれ新入幕！」の 懸賞幕を抛出



ぴあ総研が調査・編集 『2019ライブ・エンタテ イメント白書』を発行



[2]2020年度 業績予想及び配当予想 及び 中期経営計画(2018~2020年度)の数値目標



**2020年度の業績予想、及び
中期経営計画の数値目標については、
今般の新型コロナウイルス感染症による業績への
影響を、現時点で合理的に算定することが極めて
困難であることから、今後、開示が可能となった
段階で速やかに公表予定。**